

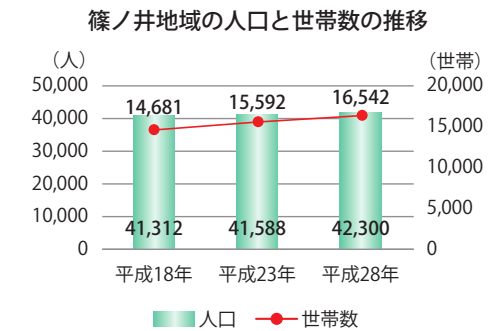
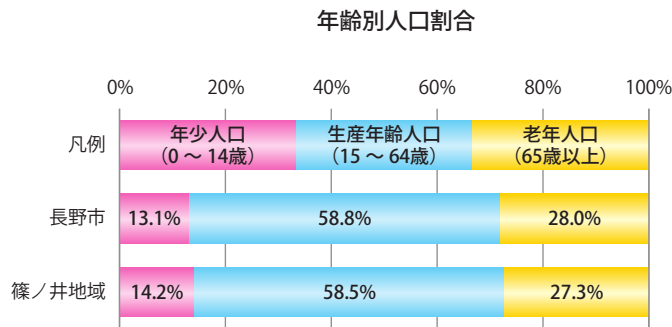
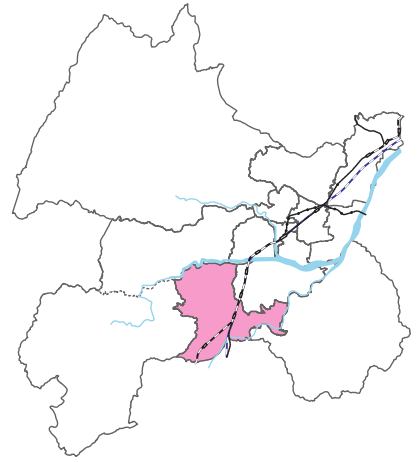
9 篠ノ井地域（篠ノ井地区）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

篠ノ井地区は、市南部の中心的な市街地である。篠ノ井駅や北国街道から拡大するように住宅地が形成され、市街地周辺には農地が広がるが、市街地のスプロール化が進んでいる。篠ノ井駅の徒歩圏内には、南部図書館や篠ノ井総合市民センターなどの文化・教養施設が立地している。地域内には、茶臼山動物園や南長野運動公園等のスポーツ・レクリエーションの拠点的な施設が立地する。地域西部の信里は、中山間地域に属する。

居住人口は、緩やかな増加傾向にあり、年少人口の割合は比較的高いが、人口割合は、ほぼ市の平均的な数値である。世帯数は、増加傾向にある。



住民基本台帳から作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

拠点の形成・都市機能

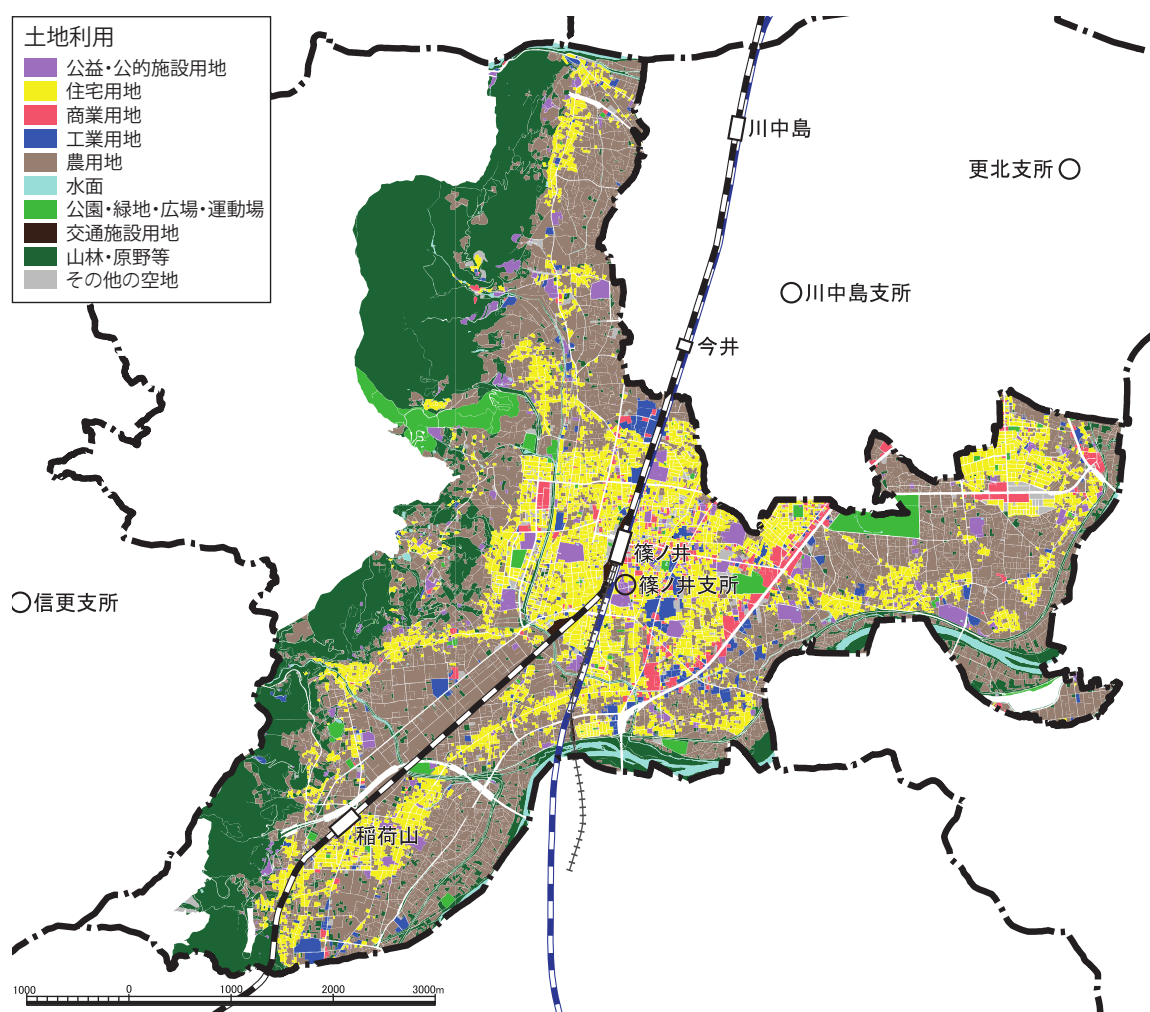
- ・篠ノ井駅周辺では、東口の駅前通り沿いに住宅地の混在する商業・業務地区が形成されているが、施設の撤退等により、商業地として求心力が低下している。
- ・国道18号や県道長野上田線では、大型店、専門店、飲食店などの商業施設が集積している。
- ・篠ノ井駅の徒歩圏内に、南部図書館、篠ノ井総合市民センターなどの文化・教養施設が立地している。

課題

- ▶ 篠ノ井駅周辺は、市南部の地域拠点として、JR線としなの鉄道線、鉄道とバスの交通結節点としての優位性を活かした高度な土地利用による都市機能の強化が必要である。

土地利用

- ・ 県道長野上田線や国道 18 号、五明西寺尾線沿いには、沿道型商業店舗や事務所等が立地している。
- ・ 幹線道路沿いや市街地の周辺に工場等の立地が見られる。
- ・ 土地区画整理事業により、瀬原田地区や水沢上庭地区では、新たな住宅地が整備されている。
- ・ 市街地周辺には、農地が広がり、地域西部の信里地区には山林も多い。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成（都市計画区域外はデータがないため非表示）

課題

- ▶ 環境や高齢化に配慮したコンパクトな市街地の形成が求められる。
- ▶ 幹線道路沿いでは、無秩序な店舗等の立地による環境の悪化を防ぐため、計画的な土地利用の誘導を図り、生活の利便性や生活拠点強化する市街地の形成が必要である。
- ▶ 豊かな自然と生活や産業が調和した土地利用が求められる。
- ▶ 農業的な土地利用が主の地区では、農地の保全を図るとともに、体験型農業や 6 次産業化など農業の振興に必要な施設が立地可能な土地利用を検討する。
- ▶ 篠ノ井駅西口の低・未利用地の活用による都市機能の強化が求められる。
- ▶ 高速道路インターチェンジへのアクセスの良さを活かした土地利用の誘導が求められる。

道路・交通

- ・新幹線の整備に合わせ、篠ノ井駅では、自由通路や広場等の整備が行われた。
- ・幹線道路が未整備で、通勤時間帯などに渋滞を発生させている。
- ・公共施設等を結ぶバス路線網がせい弱である。

課題

- ▶ 篠ノ井駅周辺では、幹線道路やパーク・アンド・ライド用の駐車場等の整備が必要である。
- ▶ 歩道の拡幅など生活道路の改良が必要である。
- ▶ 補助幹線道路の整備と合わせたバス路線網の再編により、篠ノ井駅を中心とした地域内の連絡や、松代などの他の地域拠点との連絡を担う、公共交通ネットワークの形成が必要である。

自然環境・都市環境・景観

- ・茶臼山一帯には、動物園や植物園、恐竜公園が整備されている。
- ・南長野運動公園は、大規模な公園として市民の憩いの場であるとともに、スポーツイベント等の開催による広域的な集客力がある。
- ・千曲川沿いには、果樹園を中心としたまとまった農地と集落が点在している。
- ・千曲川・岡田川などの自然河川や、農業用水路が多く流れている。
- ・地区西部の信里地区には、豊かな自然が残る山林や農地が多く残されている。

課題

- ▶ 南長野運動公園・茶臼山公園等の拠点的な公園や公共施設を活かし、県内外からの来訪者との広域的な交流を促進する街づくりが求められる。
- ▶ 良好な農地と千曲川等の自然環境を保全するとともに、緑豊かで良好な住環境の整備が必要である。
- ▶ 篠ノ井駅周辺や幹線道路沿いでの良好な景観形成への誘導が必要である。

防災・安全

- ・千曲川沿いの西寺尾や東福寺、塩崎地区には、農地が広がっているが、過去に水害を受け、治水・排水対策が行われている。
- ・中山間地域である信里地区では、頻繁に土砂災害が発生している。

課題

- ▶ 水害等の災害に強い街づくりや体制づくりが必要である。
- ▶ 木造の建築物が密集する地区では、建築物の不燃化や建築物の耐震化が必要である。



茶臼山恐竜公園



茶臼山動物園

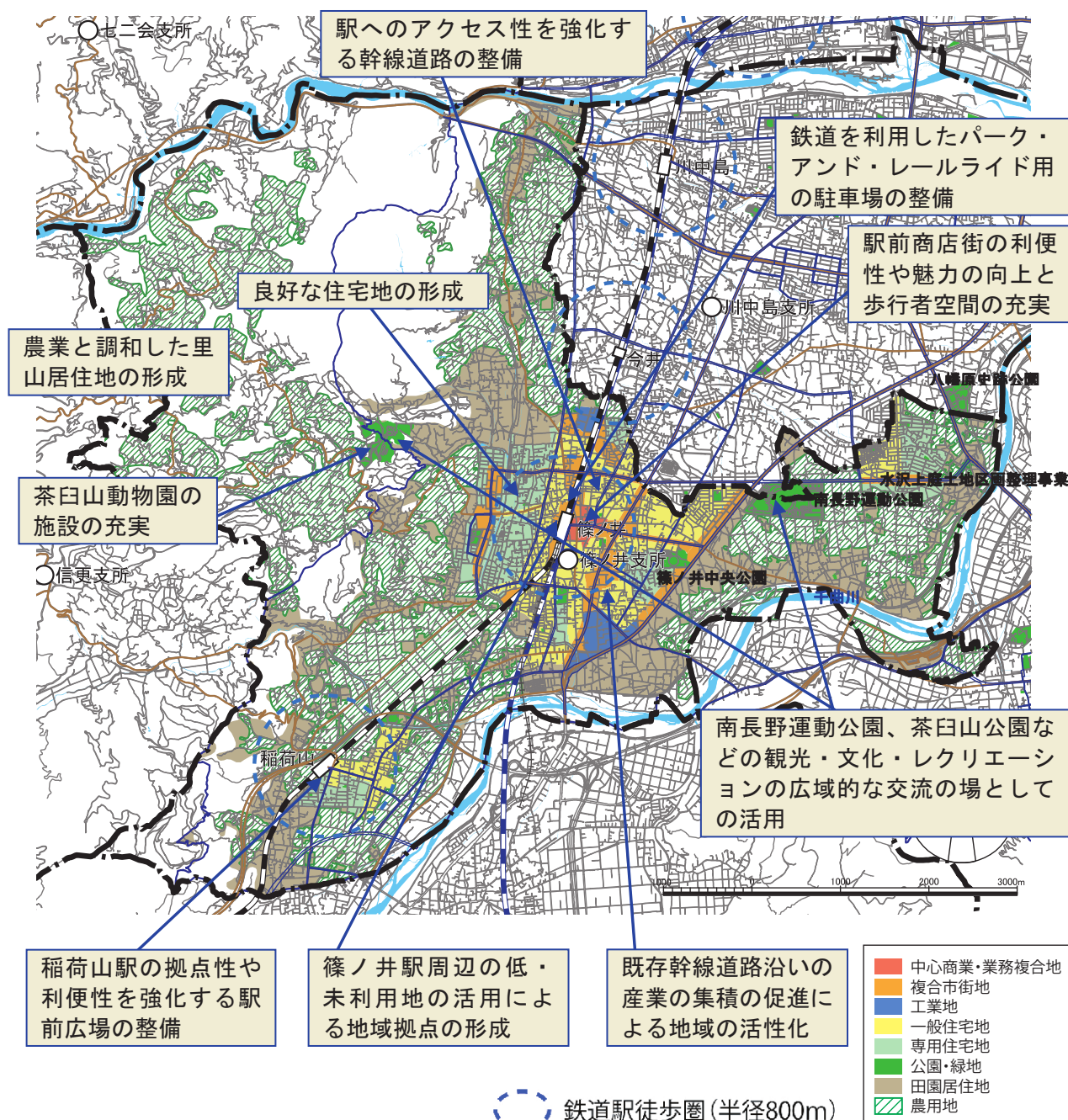


オリンピックスタジアム

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	市南部の地域拠点として、広域的な交流の促進や生活文化機能の向上など、長野市の南の玄関口にふさわしい地域づくりを目指す。
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画において都市機能誘導区域を指定し、長野市の南の玄関口として、地域拠点にふさわしい都市機能の充実を図る。 ・地域内に広がる住宅地を公共交通で結び、篠ノ井駅を中心とした都市機能の集約により、コンパクトな街づくりを進める。 ・都市機能の集積を図り、拠点性を高めるために篠ノ井駅周辺の低・未利用地の活用を検討する。 ・国道18号、県道長野上田線等の広域幹線道路沿いの市街地では、店舗等の適正な立地を誘導する。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・国道18号、県道長野上田線、五明西寺尾線等の周辺地区では、市街地の無秩序な拡大を防止し、周辺の農地とも調和した土地利用を図る。 ・長野インターチェンジ・更埴インターチェンジに近接するエリアでは、地域特性を活かし、商業・業務・工業等の秩序ある土地利用を進める。 ・篠ノ井駅の西部や稲荷山駅周辺の市街地は、住宅地を中心とした良好な住環境を維持する土地利用を図る。 ・千曲川沿いや地域西部の丘陵地一帯は、農業的土地利用と居住機能が調和した、防災性にも配慮した土地利用を図る。 ・市街地の周辺地区は、農地の保全を図り、農業と居住機能が調和した土地利用とともに、農業の振興を目的とした他産業との連携を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・篠ノ井駅周辺では、駅前商店街の利便性や魅力を高めるとともに、歩行者空間の充実を図る。 ・篠ノ井駅では、自動車通勤による渋滞の緩和と公共交通の利用の促進を図るため、パーク・アンド・ルールライド用の駐車場の整備を推進する。 ・稲荷山駅では、拠点性や利便性強化のため駅前広場等の整備を進める。 ・篠ノ井駅の拠点性を高めるため、幹線道路と生活道路の一体的な整備を推進する。 ・川中島地区と篠ノ井地区間の南北連携を円滑にするため、川中島幹線の整備を推進する。 ・県道長野上田線など交通量が多い幹線道路では、歩道の整備と交差点の改良を促進する。 ・千曲市・上田市等との広域的な連携を強化するために必要な道路の整備の促進を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・南長野運動公園・茶臼山公園等は、観光・文化・レクリエーションの広域的な交流の場として活用を図る。 ・道路空間の緑化や、沿道で緑化活動の促進と、良好な景観形成の誘導により緑の軸を形成する。 ・市街地内の公園や街路樹等の整備に加え、住宅地内の緑化等により、緑豊かな住環境の整備を進める。 ・犀川から取水される農業用水路を保全し、活用を図る。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅地では、狭あいな道路の改良、建築物の耐震補強の推進などにより、防災能力の強化を図る。 ・南長野運動公園・篠ノ井中央公園等の拠点的な公園や学校等の公共施設は、防災の拠点としての機能の強化を図る。 ・千曲川・岡田川では、水害を防ぐ河川改修を促進する。 ・水害等の災害に強い街づくりや体制づくりを進める。

【篠ノ井地域 整備方針図】



地域共通の事項

- ・ 道路空間の緑化や、沿道で緑化活動の促進と、良好な景観形成の誘導による緑の軸の形成
- ・ 幹線道路沿いの流通施設などの秩序ある立地
- ・ 緑や景観に配慮した、防災性の高い住環境の整備
- ・ 国道 18 号、県道長野上田線、五明西寺尾線等の幹線道路の周辺地区での市街地の無秩序な拡大を防止
- ・ 農地の保全と農業振興を目的とした他産業との連携

10 松代・若穂地域（松代地区・若穂地区）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

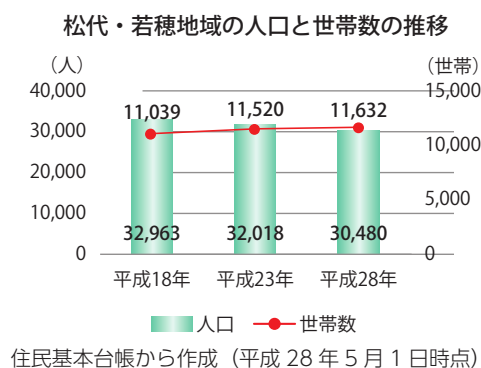
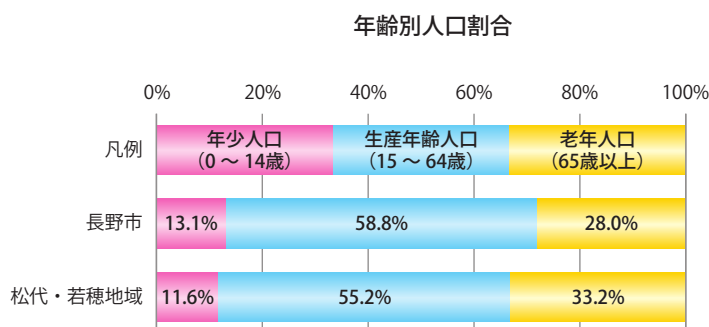
地域特性

歴史・文化的資産が多く残る地域で、千曲川と山々に囲まれた平坦地にコンパクトな市街地が形成されている。

松代地区は、武家屋敷や寺社を中心に観光振興やまちづくり活動が行われている。若穂地区は、農業と居住機能が調和した土地利用となっている。

長野インターチェンジや長野東インターチェンジ周辺では、流通機能が立地している。

居住人口は、緩やかな減少傾向にあり、年少人口と生産年齢人口の割合は比較的低く、老年人口の割合は比較的高い。世帯数は、緩やかな増加傾向にある。



現況と課題

拠点の形成・都市機能

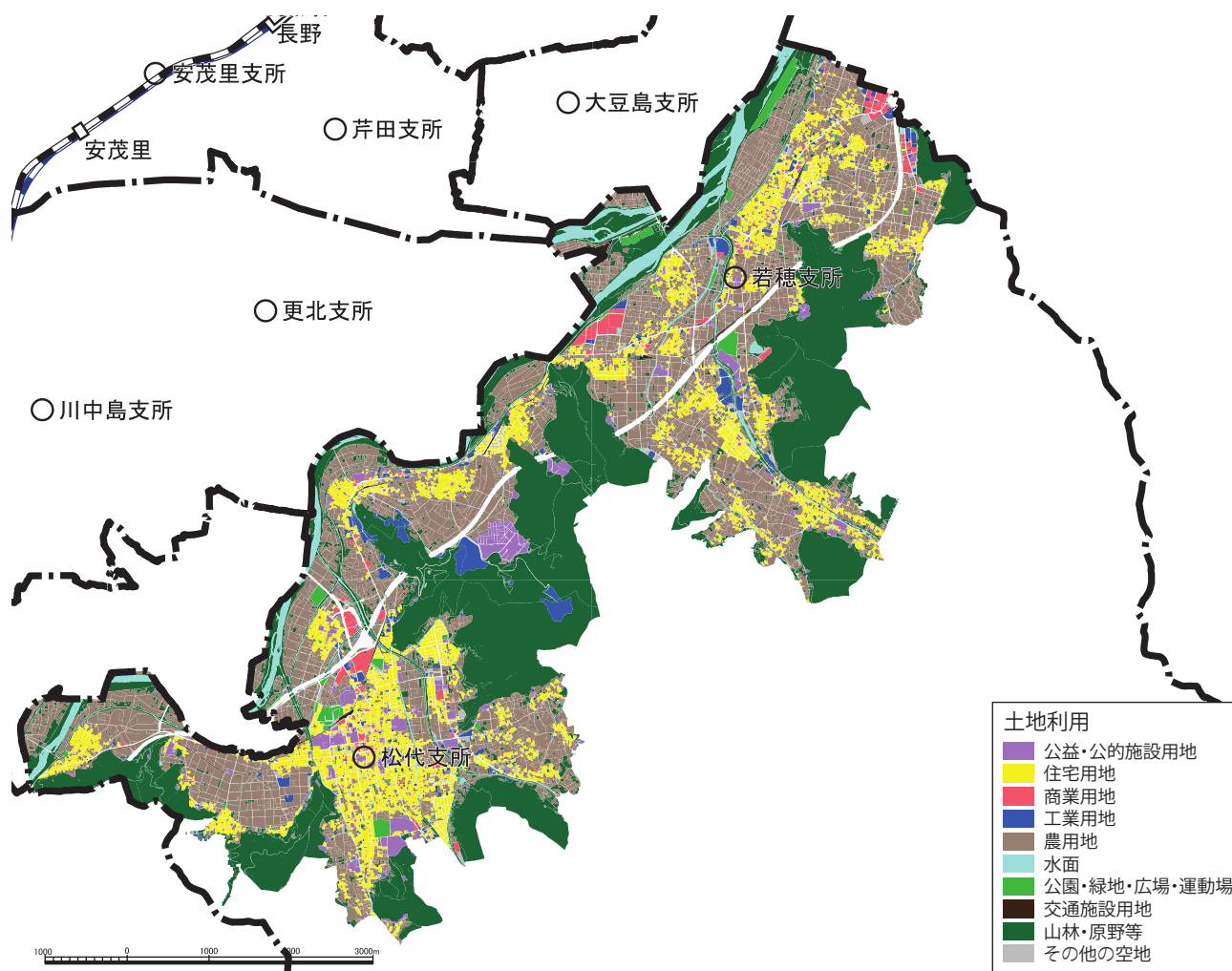
- ・千曲川の右岸を運行していた長野電鉄屋代線が利用者の減少などにより、平成24年（2012年）に廃止され、廃線敷地は、自転車・歩行者専用道路として整備中である。
- ・松代地区は、商業・観光・行政等の諸機能がコンパクトに集積しており、総合病院が立地するなど、千曲川東側地域の中心的な市街地となっている。
- ・若穂地区の綿内には、国道403号沿いに小規模な店舗や金融機関などの立地が見られる。

課題

- ▶長野電鉄屋代線の廃止により、鉄道による公共交通が無くなったことから、松代地区の拠点としての機能を維持するため、交通ネットワークの確保が必要である。
- ▶松代地区は、観光・交流の拠点として、地域の文化や史跡、歴史的街並みを活かした地域の活性化と、地域拠点としての利便性をもつ街づくりが必要である。
- ▶若穂地区は、不足している生活利便施設（食品スーパー等）の立地を誘導し、生活を支える拠点性の向上が必要である。

土地利用

- ・北国街道沿いに住宅地が形成されているが、市街地周辺には、農地が広がり、集落が点在している。
- ・高速道路のインターチェンジの周辺では、流通機能等の集積が見られる。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成（都市計画区域外はデータがないため非表示）

課題

- ▶ 農業的な土地利用が主の地区では、農地の保全を図るとともに、体験型農業や 6 次産業化など農業の振興に必要な施設が立地可能な土地利用を検討する。
- ▶ インターチェンジに隣接する立地を活かした産業・流通機能の集積の促進が必要である。

道路・交通

- ・ 城下町の街並みが残る一方、都市基盤が未整備で、通勤時間帯などに渋滞を発生させている。
- ・ 旧長野電鉄屋代線の廃線により、代替路線バス（屋代須坂線）が運行されている。
- ・ 若穂地区では、廃止代替路線バス（大豆島保科温泉線）の共同運行がされている。

課題

- ▶ 歴史的街並みに配慮した道路や歩道の整備を進める必要がある。
- ▶ 観光振興などによる交流人口の増加を目的とした、分かりやすく使いやすい道路と駐車場の充実や、公共交通との連携が必要である。
- ▶ 長野電鉄屋代線の廃線に伴う公共交通網の再編を検討する必要がある。
- ▶ 千曲川右岸エリアの地域拠点として、長野広域拠点や周辺の地域拠点とを結ぶ公共交通ネットワークの形成が必要である

自然環境・都市環境・景観

- ・ 千曲川沿いには、農地が広がり、りんご・ぶどう等の果樹や、長芋等の野菜の畑地となっている。
- ・ 松代地区の中心市街地では、武家屋敷や寺社など歴史的街並みが残っており、これらを活かした道路の整備等が進んでいる。

課題

- ▶ 千曲川や森林などの自然環境の保全が求められる。
- ▶ 市街地内の川や水路、公園や寺社の緑とオープンスペースを活かした潤いのある街づくりを進める必要がある。
- ▶ 松代地区から若穂川田地区周辺では、歴史的風致の維持・向上が必要である。

防災・安全

- ・ 千曲川沿いの低地では、過去に浸水被害が発生している。

課題

- ▶ 千曲川沿いの低地での水害に強い街づくりや体制づくりが必要である。
- ▶ 文化財を含む木造建築物が多い歴史的市街地では、防火機能の向上が必要である。



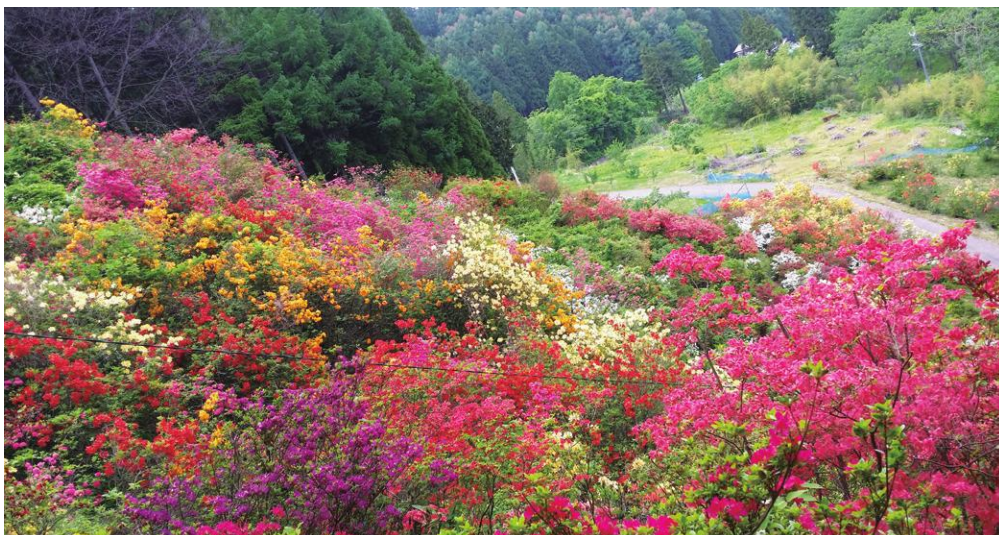
松代地区の街並み



松代藩真田十万石まつり



若穂山新田の藤棚

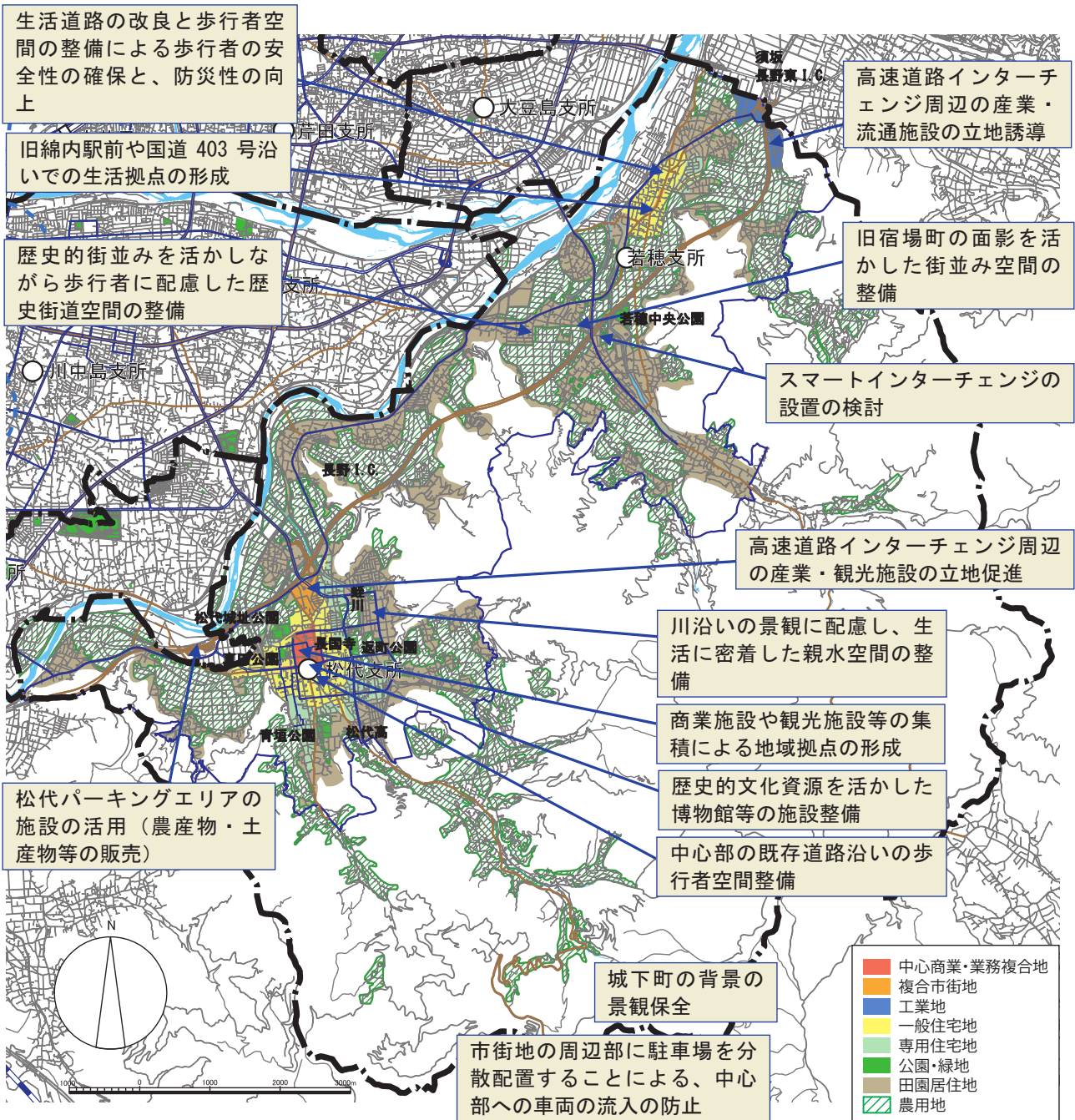


赤野田つつじ

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	地域の特色ある歴史や文化を活かした観光・交流の促進を図り、良好な街並みと自然が共存するまちを目指す。
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・旧松代駅周辺の地区では、立地適正化計画において都市機能誘導区域を指定し、地域拠点として、松代城、真田邸等の歴史的な文化資源を活かした博物館施設等の整備や、商業・観光施設などの集積を図る。 ・若穂地区では、旧綿内駅前や国道403号沿いの生活利便施設等の立地を促進するとともに、良好な住環境の確保により生活拠点の形成を図る。 ・長野インターチェンジや須坂長野東インターチェンジ周辺は、流通、工業等の産業施設の集積を促進する。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・旧松代駅を中心とした市街地では、地域拠点としての都市機能の維持、集積を促進するとともに、松代城や真田邸などを代表とする観光資源を活用した土地利用を誘導する。 ・長野インターチェンジ・須坂長野東インターチェンジ周辺では、立地条件を活かし、産業・流通等の土地利用を誘導する。 ・松代・若穂地域の住宅地は、戸建て住宅を中心とし、点在する寺社や川などの歴史・自然と調和し、景観に配慮した住宅地として土地利用を図る。 ・市街地の周辺地区は、農地の保全を図り、農業と居住機能が調和した土地利用とともに、農業の振興を目的とした他産業との連携を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・松代地区では、点在する史跡や公園等を、観光客などが徒歩で回遊できるように、景観に配慮した歩行者空間の整備を進める。 ・道路の幅員が狭く、交通安全や景観上問題のある中心市街地では、歩行者空間の確保と、街並みを活かした道路の整備等を推進する。 ・松代地区では、市街地の周辺部に計画的に駐車場を整備することで、中心部へ自家用車の流入を防ぎ、徒歩での周遊観光を推進する。 ・長野広域拠点と地域拠点である松代地区を結び南北基幹交通軸の強化と、周辺の地域拠点などを結び公共交通ネットワークの確保を図る。 ・渋滞緩和を図るために、幹線道路の整備を進める。 ・千曲川に架かる橋でのボトルネックを解消するため、落合橋の拡幅整備を図る。 ・産業基盤の機能の向上を目的としたスマートインターチェンジ*等の設置について検討する。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・農地や森林と共存した良好な田園居住地の形成を図る。 ・史跡や武家屋敷など歴史的な街並みが残る地区では、地域の観光資源として、街並みの保全と再生を進めるとともに、潤いのある良好な住環境の整備を進める。 ・千曲川・蛭川・神田川や街中を流れる水路沿いでは、水辺の景観に配慮し、自然とふれあう泉水路の保全や遊歩道の整備を進める。 ・旧宿場町の面影を活かした街並み景観の整備を進める。 ・国道403号沿いでは、良好な街並みの形成を図る。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や公園などのオープンスペースを活用し、街の防災機能の強化を図る。 ・生活道路や歩行者空間の整備等により、木造の建築物が密集する地区の防火機能の強化を図る。 ・歴史ある木造建築物の防災機能の強化を図る。 ・水害等の災害に強い街づくりや体制づくりを進める。

【松代・若穂地域 整備方針図】



地域共通の事項

- ・ 歴史的街並みの保存・再生と合わせた住環境の整備
- ・ 農地や山林に囲まれた良好な田園居住地の形成
- ・ 農地の保全と農業振興を目的とした他産業との連携

11 北部山間地域（芋井地区・戸隠地区・鬼無里地区・浅川地区の一部）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

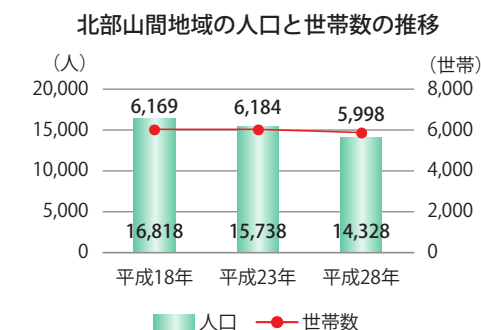
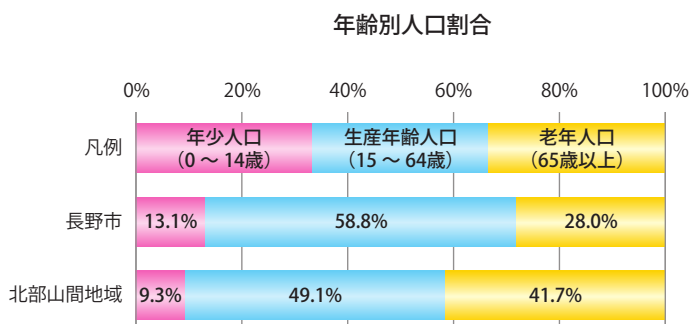
地域特性

市北部の丘陵・山間部であり、北は戸隠連峰と飯縄山から、南は裾花川までの地域である。飯縄山麓には高原地帯が広がり、地域南部の裾花川沿いの谷間や斜面には、森林や農地に集落が点在する。飯綱高原、戸隠、鬼無里地区の一部は、妙高戸隠連山国立公園に指定されており、長野市を代表する自然観光・レクリエーションの拠点である。

また、飯綱高原地区は、自然と調和した土地利用を目指すため、平成15年に飯綱高原都市計画区域に指定された。その他の地区は都市計画区域外である。

地区ごとに特有の伝統と文化を持ち、古くから市街地との交流が多く、現在では、主に国道406号、戸隠バードライン、浅川ループライン等の幹線道路によって、交流している。

居住人口は、減少傾向にあり、年少人口と生産年齢人口の割合は低く、老年人口の割合は高いため、地域の活力が失われてきている。世帯数は、緩やかな減少傾向にある。



住民基本台帳から作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

拠点の形成・都市機能

- ・市の支所周辺には、公共施設や生活利便施設が立地しており、行政や日常生活の中心となる生活中心地が形成されている。
- ・地域内の一部は、妙高戸隠連山国立公園に指定されており、戸隠高原、飯綱高原、奥裾花自然園、戸隠神社、白髭神社、戸隠地質化石博物館、スキー・キャンプ場などの豊かな自然や景観を活かした観光・レクリエーション・文化施設が立地し、観光資源となっている。

課題

- ▶ 地区の中心である市の支所周辺では、日常生活支援機能や福祉・教育施設などの集積と維持や、地域内のネットワークの確保が必要である。
- ▶ 豊かな自然や、心安らぐ景観を活かした観光として、飯綱高原や戸隠高原では、アウト

ドアスポーツやアウトドアライフを楽しむ施設や環境を活かし、スポーツ・レクリエーションの拠点性を高め、周辺地域との連携による周遊性の向上が必要である。

- ▶ 戸隠神社、白髭神社、戸隠地質化石博物館などの歴史・文化資源を活かした観光の拠点性や周遊性の向上が必要である。

土地利用

- ・ 農林業と居住機能が一体となった土地利用が行われてきたが、既存集落では、人口減少と高齢化の進展により、地域コミュニティ*の存続が課題となっている地区が増加している。
- ・ 飯綱高原地区では、森林や農地の中に集落や別荘が点在している。
- ・ 国道 406 号や県道等の主要な道路沿いには、大規模な集落が形成されており、日用品や食料品を販売する店舗や、観光施設等が立地している。

課題

- ▶ 生活利便性の向上や、既存集落のコミュニティの維持と、豊かな自然や景観を活かした交流による地域の活性化を目指した施設の整備や、施策の展開が必要である。
- ▶ 別荘地や集落等とその周辺地区での無秩序な開発を抑制するとともに、良好な自然環境の保全を進める必要がある。

道路・交通

- ・ 隣接する市街地と連絡する幹線道路が各地区を結んでいるが、山間部のため、道路の整備が進んでいない箇所もある。
- ・ 裾花川沿いの国道 406 号と、地区間や隣接地域を結ぶ県道等の幹線道路の整備が求められている。
- ・ 地域間の交流や、観光の周遊性の確保のために、隣接地域との交通ネットワークの強化が求められる。
- ・ 地域内では、コミュニティバスやデマンドタクシーが運行されている。

課題

- ▶ 隣接市街地との連携を強化するための道路の整備・充実が必要である。
- ▶ 観光の周遊性の確保や、隣接地域との交流を促進するために、地域間を連絡する幹線道路の整備が必要である。
- ▶ 防災性の向上や安全性を重視した生活道路の整備が必要である。
- ▶ 住民生活の移動手段となるバス交通等の公共交通ネットワークの確保が必要である。

自然環境・都市環境・景観

- ・農地や森林といった土地利用が大部分を占めている。
- ・農地では、遊休・荒廃農地も増えてきている。
- ・森林では、保安林の他に飯綱高原や戸隠、鬼無里地区の一部は、妙高戸隠連山国立公園に指定され、豊かな自然環境を活かした施設が整備されている。
- ・奥裾花峡谷やブナの原生林をはじめとする自然豊かな環境を有している。
- ・戸隠地区では、戸隠神社中社・宝光社を中心とする範囲が国の重要伝統的建造物群保存地区*に選定されている。

課題

- ▶ 集落の後背地である森林等の緑と景観の保全が求められる。
- ▶ 幹線道路沿い等における良好な環境・景観の維持・創出を図る必要がある。
- ▶ 農林業を活かした交流等の促進により、森林や農地の機能の保全を図る必要がある。
- ▶ 水源の保護や適切な森林整備の促進に努め、木質バイオマスエネルギー*など森林資源の適切な活用を図る必要がある。
- ▶ 戸隠地区では、茅葺き建物をはじめとする伝統的建造物がつくりだす歴史的街並みの整備や、戸隠神社奥社・中社・宝光社を中心とする歴史的、文化的景観の維持が必要である。
- ▶ 鬼無里地区では、アルプス展望の保全と、観光資源としての活用が必要である。

防災・安全

- ・広範な地域が地すべり防止区域等の指定を受けており、土砂災害を受けやすい地形となっている。
- ・山間部に集落が点在しているため、土砂災害や冬季の降雪による地域生活への影響が懸念される。冬季は積雪も多く、地域生活への影響がある。
- ・道路への倒木防止の観点からも、適切な森林整備が必要である。

課題

- ▶ 災害防止のための防災施設の整備や予防・応急体制の充実が必要である。
- ▶ 災害時に集落の孤立を防ぐため、複数のアクセス経路の確保が必要である。
- ▶ 冬季の除雪対策（道路等）を進める必要がある。
- ▶ 災害抑止の観点として、森林・農地などの自然環境を保全し、保水能力を高める必要がある。



素桜神社の神代桜



戸隠 スキー場



奥裾花ダム湖（紅葉）

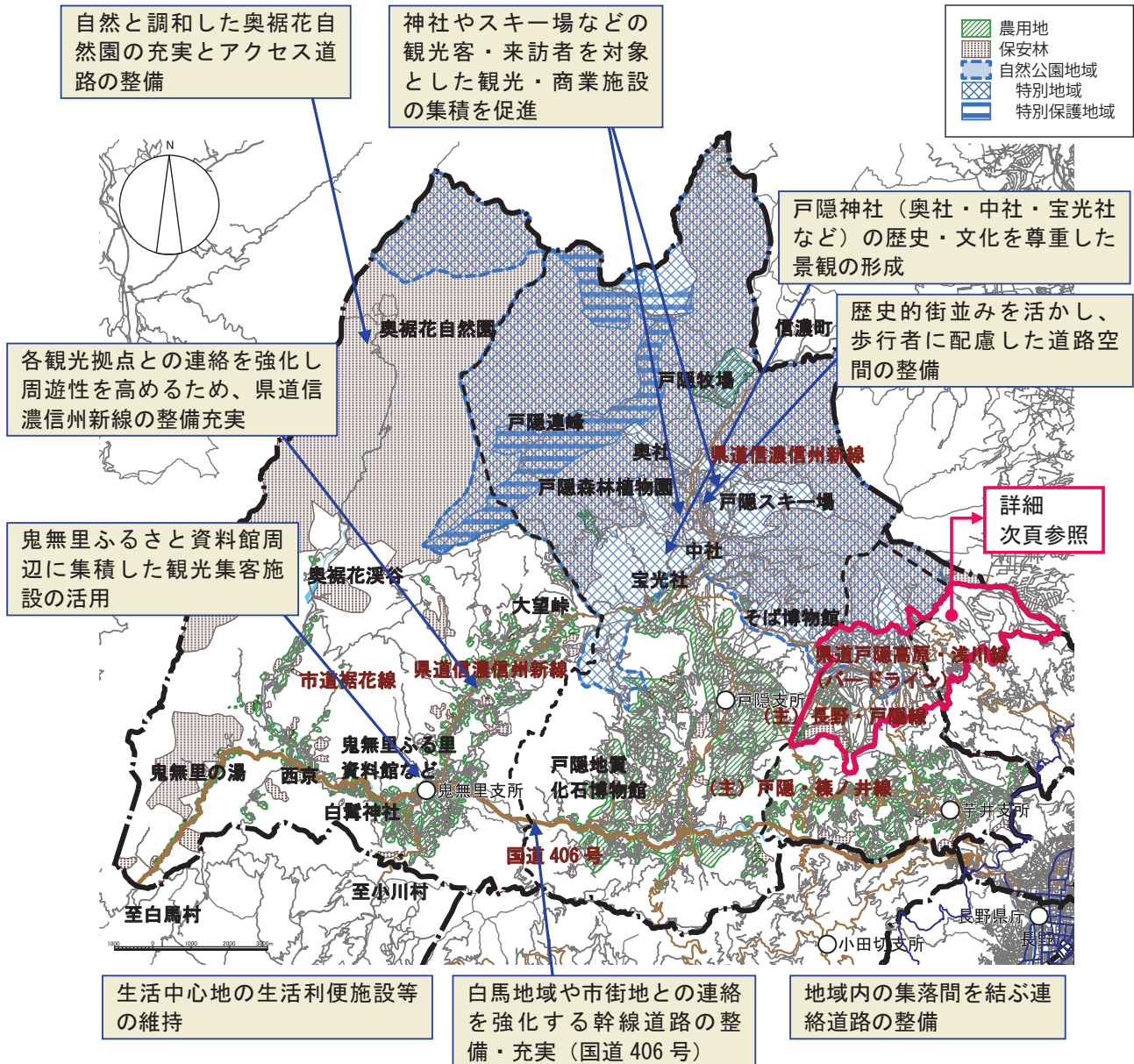
(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

<p>地域の街づくりの目標</p>	<p>自然を活かした観光・スポーツ・レクリエーションなどの活動が展開される拠点の形成と、自然と共生する多様な住み方を可能にする高原生活圏の形成や、良好な環境を活かした里山居住地の形成を目指す。</p> <p>地域特有の歴史・文化や自然・景観などの資源を活かしたまちづくりを進め、地域間交流の増進と、地域コミュニティの再生・維持を目指す「小さな拠点」づくりに取組む。</p>
<p>整備の方針</p>	
<p>拠点の形成・都市機能形成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や風土を尊重し、良好な環境を活かした高原居住地や里山居住地の形成を図る。 ・国立公園に指定されている自然をはじめ、史跡・神社などの歴史的文化資産を活かした観光や、スキー・キャンプ場のスポーツ・レクリエーション活動の拠点の形成とともに、情報発信等による交流人口の増加を図る。 ・将来にわたって持続可能な地域づくりを目指す取組みである「小さな拠点」づくりによる生活中心地の形成を図る。
<p>土地利用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の拠点等を連絡する幹線道路沿いの地区では、自然環境に配慮した商業・観光施設の秩序ある立地を誘導する。 ・飯綱高原地区では、自然と共存した計画的な土地利用と開発を進めるため、「飯綱高原土地利用ガイドライン」等に沿った土地利用を図る。 ・公共施設や生活利便施設が集約しているエリアを生活中心地として、日常生活支援機能等の維持を図る。 ・空き家や低・未利用な公共施設等の活用による定住促進や短期滞在、二地域居住*などの新しい住み方や滞在方法を支援する。 ・人口減少・少子高齢化を踏まえ、点在する集落での居住環境の向上を図るとともに、地域住民の参加・合意をもとに集落の整備を進め、長期的な視点に立った集落やコミュニティの維持を図る。
<p>道路・交通整備方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長野広域拠点や他の拠点と連絡する道路の整備により、市街地との連絡機能を強化する。 ・地域の防災性や居住環境を向上させる生活道路の整備や維持管理を進める。 ・住民生活の移動手段であるバス交通やデマンドタクシー等の公共的な移動手段の確保を図る。 ・中心市街地や鬼無里地区へつながらる国道 406 号の拡幅整備を進める。 ・奥裾花自然園へのアクセス道路の計画的な整備・保全を図る。 ・周辺の観光の拠点との連携を強化し、周遊性を高めるための道路の充実を図る。
<p>自然環境・都市環境・景観形成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園をはじめとする良好な自然・景観の保全を図る。 ・北アルプスや戸隠連峰などの雄大な山並みの眺望を保全し、幹線道路の沿道やその他の景観に配慮すべき地区等においては、建物や工作物の形態、色彩、看板等の規制を行い、良好な環境・景観の維持・創出を図る。 ・市街地全体を縁取る緑としての森林の保全を図る。 ・農林業を核とした交流等の促進により、森林や農地の機能の保全を図る。 ・水源の保護や適切な森林整備の促進に努め、間伐材の木質バイオマスエネルギー利用等により森林資源の適切な活用を図る。 ・スキー場やキャンプ場などの自然環境を活用した施設の改善や、自然と調和した奥裾花自然園などの自然観光資源の保全を図る。 ・戸隠地区では、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された戸隠神社・中社・宝光社周辺の歴史的街並みの整備を進めるとともに、地域固有の歴史・文化を尊重し、周辺の自然環境と調和した景観形成を図る。

防災都市づくり方針

- ・災害等防止のための防災基盤の整備の推進や、予防・応急体制の充実を図る。
- ・災害時に集落の孤立を防ぐため、複数のアクセス経路の確保を図る。
- ・冬季の除雪体制の強化・充実を図る。

【北部山間地域 整備方針図】



地域共通の事項

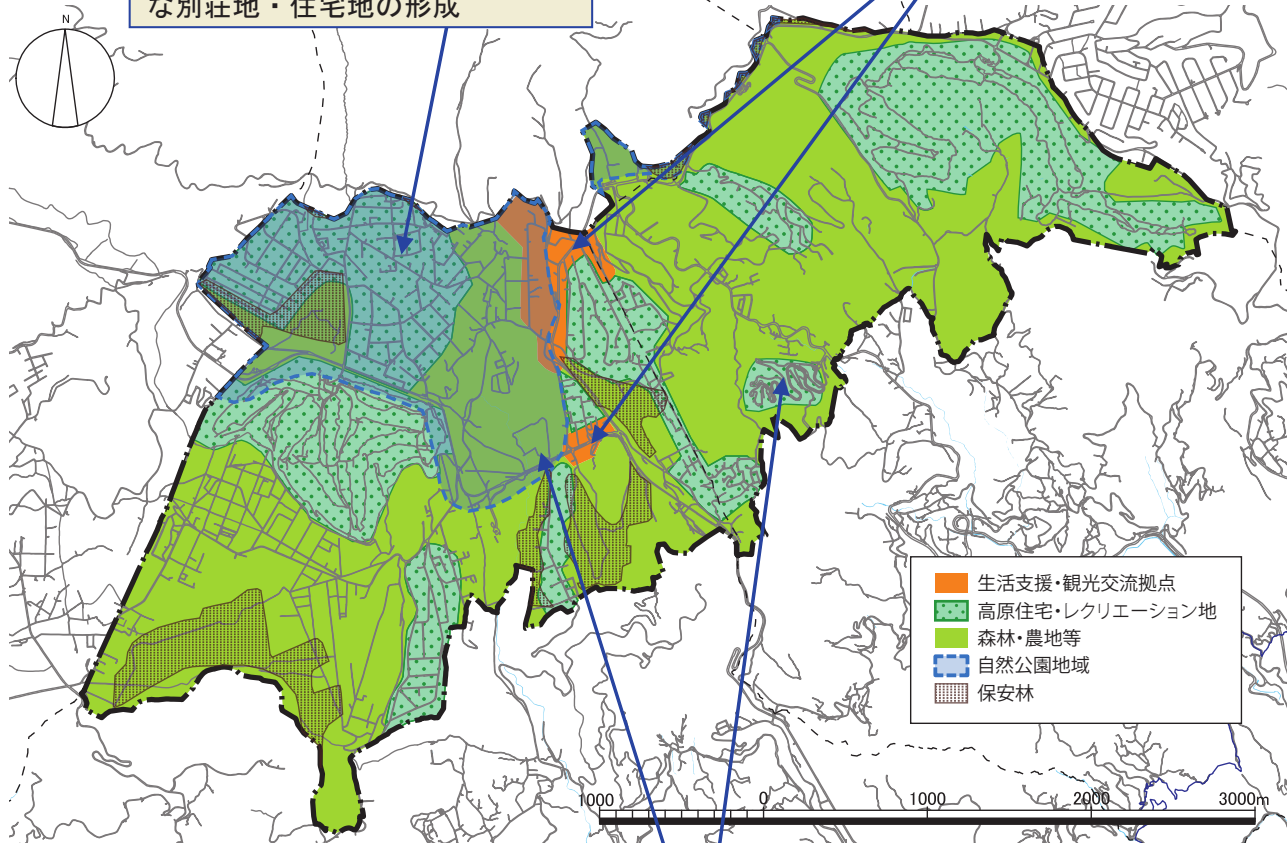
- ・森林や水源の保護と、木質バイオマスエネルギーなど森林資源の適切な活用
- ・北アルプスや戸隠連峰などの雄大な眺望の保全
- ・自然・歴史・レジャー・景観等の要素を活用した観光の振興（交流人口の増加）
- ・農林業を核とした交流等の促進による山林や農地の機能の保全
- ・空き家等の活用や滞在施設の整備等により、短期滞在や二地域居住等の受け皿の確保
- ・地域生活の移動手段となるバス交通やデマンドタクシー等の確保
- ・森林や農地と自然・歴史資源を活かし、観光とも連携した農林業の振興
- ・災害時の道路閉そくに備えた複数のアクセス経路の確保
- ・地域コミュニティの再生と維持を目指す「小さな拠点」づくりの検討

【飯綱高原地区 整備方針図】

自然環境を積極的に保全・利用する
人と自然との共存した土地利用

自然環境に配慮した商業・観光施設
の秩序ある立地を誘導

自然と調和し景観に配慮した良好
な別荘地・住宅地の形成



- 生活支援・観光交流拠点
- 高原住宅・レクリエーション地
- 森林・農地等
- 自然公園地域
- 保安林

スキー・キャンプ場、宿泊施設を活かした
拠点機能の充実



戸隠 鏡池 (秋)



鬼無里 水芭蕉



戸隠 そば畑

12 西部山間地域（小田切地区・七二会地区・信更地区・大岡地区・信州新町地区・中条地区）

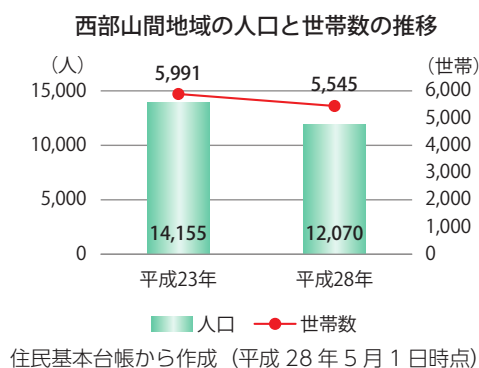
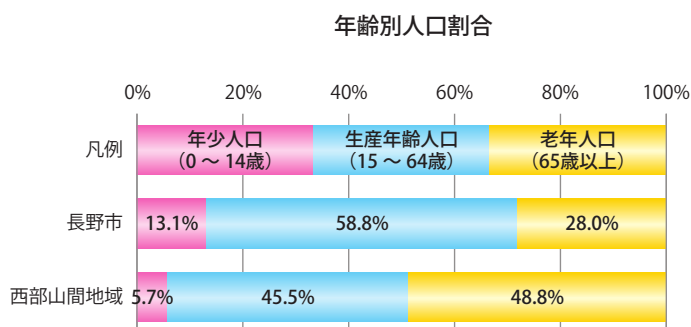
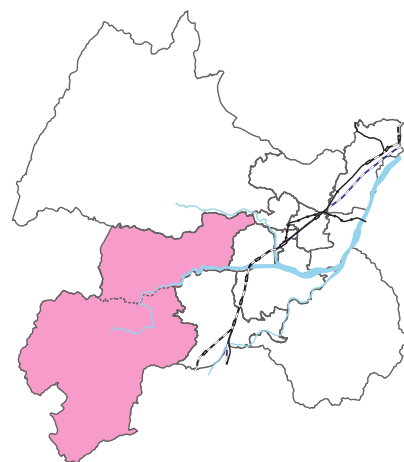
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

都市計画区域外の市西部の丘陵・山間部であり、犀川と土尻川沿いの斜面に畑作を中心とした農地が広がり、森林や集落が点在している地域である。

地区ごとに特有の伝統と文化を持ち、古くから市街地と交流が多く、現在では、主に国道 19 号と県道 31 号線（オリンピック道路）によって、交流している。

居住人口は、減少傾向にあり、年少人口と生産年齢人口の割合は低く、老年人口の割合は高く、地域の活力が失われてきている地域である。市内でも特に人口減少と高齢化が進んでいる。世帯数は、減少傾向にある。



現況と課題

拠点の形成・都市機能

- ・市の支所周辺には、公共施設や生活利便施設が立地しており、行政や地域の生活の中心となる生活中心地が形成されている。
- ・地域内には、地域に根付いた文化の発信地である信州新町美術館・化石博物館や、聖山高原、虫倉山、陣場平山、富士の塔等の豊かな自然や景観を活かした観光・レクリエーション・文化施設が立地し、観光資源となっている。
- ・信州新町地区には、総合病院や金融機関などの生活利便施設が立地し、地域内の生活中心地としての役割が期待される。

課題

- ▶ 地区の中心である市の支所周辺では、日常生活支援機能や福祉・教育施設などの集積と維持や、地域内のネットワークの確保が必要である。
- ▶ 豊かな自然や、心安らぐ景観、歴史的な資源を活かし、隣接する地域と連携した観光等の拠点性を高めていく必要がある。

土地利用

- ・農林業と居住機能が一体となった土地利用が行われてきたが、既存集落では、人口減少と高齢化の進展により、地域コミュニティの存続が課題となっている。
- ・集落の多くは、森林や農地の中に点在している。
- ・国道 19 号や県道 31 号線（オリンピック道路）沿いには、大規模な集落が形成されており、日用品や食料品を販売する店舗が立地し、道の駅や特産品直売施設などが点在している。

課題

- ▶生活利便性の向上や、既存集落コミュニティの維持のための施設の整備や、既存施設の連携が必要である。
- ▶人口減少・少子高齢化への対応として、豊かな自然や景観を活かした交流による地域活性化を目指す施設の整備や施策の展開が必要である。

道路・交通

- ・隣接する市街地と連絡する幹線道路が各地区を結んでいるが、山間部のため、道路の整備が進んでいない箇所もある。
- ・犀川・土尻川沿いの国道 19 号や県道 31 号線（オリンピック道路）と地区間を連絡する幹線道路の整備が求められている。
- ・地域内では、コミュニティバス*が運行されている。

課題

- ▶隣接市街地との連携を強化するための道路の整備・充実が必要である。
- ▶観光の周遊性の確保や、隣接地域との交流を促進するために、地域間を連絡する幹線道路の整備が必要である。
- ▶防災性の向上や安全性を重視した生活道路の整備が必要である。
- ▶中山間地域では、集落間を結ぶデマンドタクシー等の効率的な移動手段が必要である。
- ▶市街地との連携のため、住民の移動手段となるバス交通等の確保が必要である。



信州新町 犀川カヌー



小田切 巡礼桜

自然環境・都市環境・景観

- ・農地や森林といった土地利用が大部分を占めている。
- ・農地では、遊休・荒廃農地も増えてきている。
- ・森林では、保安林の他に聖山高原県立公園に指定され、豊かな自然環境を活かした施設が整備されている。
- ・有害鳥獣による農作物の被害が増加し、農家の営農意欲の低下を招いている。
- ・日本の棚田百選*に指定された長野らしい里山の田園風景や、北アルプスの展望などの農地と自然が調和した美しい景観が地区には残されている。
- ・虫倉山のトレッキングコースや、聖山高原のキャンプ場などの自然に親しむ施設も立地している。
- ・琅鶴湖と久米路峡をはじめとする豊かな自然景観が保全されている。

課題

- ▶市街地の後背地である森林等の緑と景観の保全が求められる。
- ▶幹線道路沿い等における良好な環境・景観の維持・創出を図る必要がある。
- ▶農林業を活かした交流等の促進により、森林や農地の機能の保全を図る必要がある。
- ▶水源の保護や適切な森林整備の促進に努め、木質バイオマスエネルギーなど森林資源の適切な活用を図る必要がある。
- ▶北アルプスの展望や棚田等の農地景観などを観光資源として活用・保全する必要がある。
- ▶犀川・土尻川沿いの自然豊かな里山景観への配慮が必要である。

防災・安全

- ・広範な地域が地滑り防止区域に指定されており、土砂災害を受けやすい地形となっている。
- ・山間地に集落が点在しており、土砂災害や冬季の降雪による地域生活への影響が懸念される。

課題

- ▶災害防止のための防災基盤の整備や予防・応急体制の充実が必要である。
- ▶災害時に集落の孤立を防ぐため、複数のアクセス経路の確保が必要である。
- ▶冬季の降雪対策（道路等）を進める必要がある。
- ▶災害抑止の観点として、森林・農地の自然環境を保全し、保水能力を高める必要がある。



大岡の棚田



道祖神祭り



久米路峽の紅葉



棚田栃倉中条

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

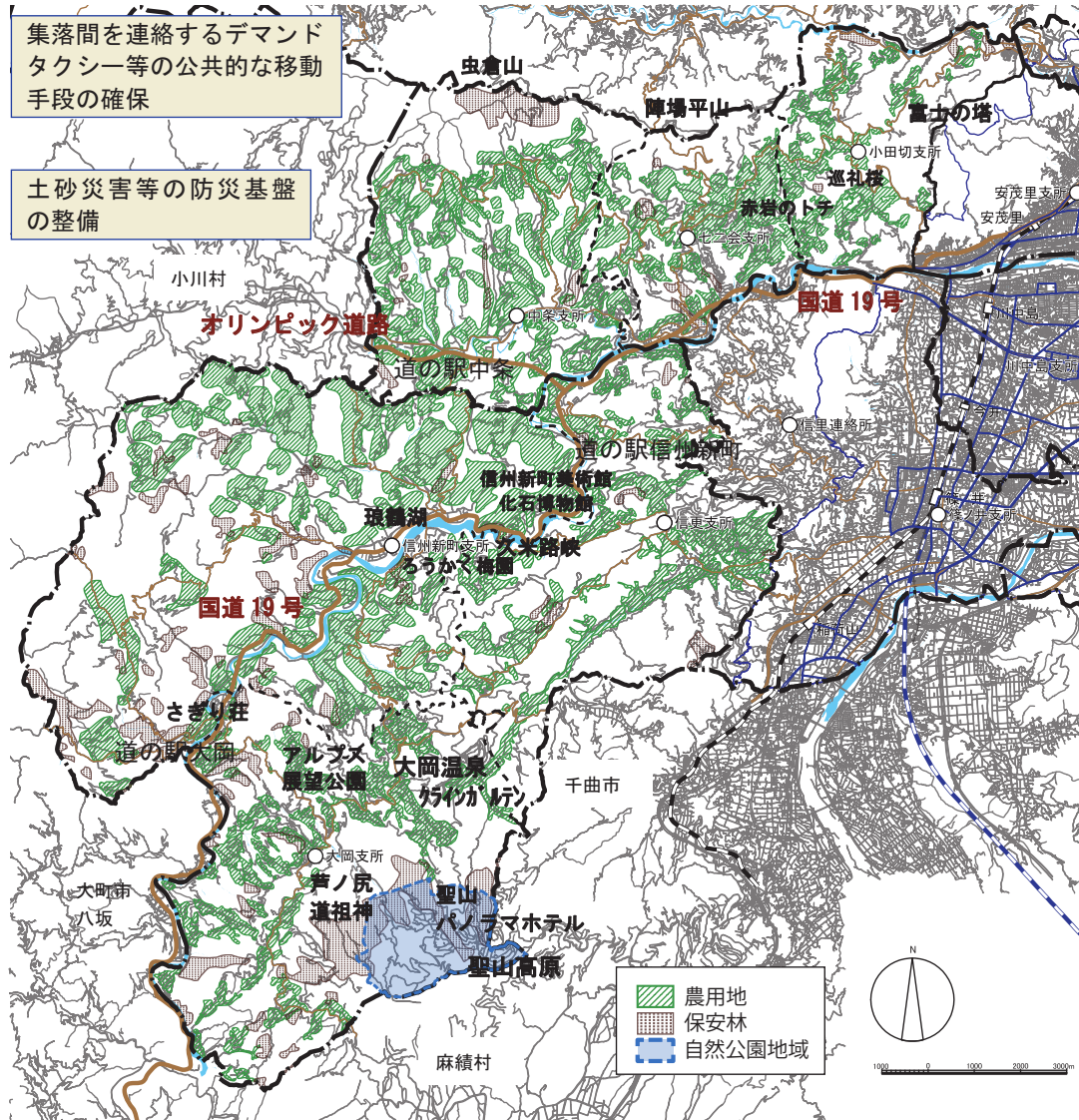
<p>地域の街づくりの目標</p>	<p>農林業の振興と里山居住地の景観を確保しつつ、地域の活性化や、防災性の向上など、長野らしい里山の自然の中で、農林業や生活が一体となった地域の生活環境の整備を目指す。</p> <p>豊かな自然・景観などの地域資源を活かしたまちづくりを進め、地域間交流の増進と、地域コミュニティの再生・維持を目指す「小さな拠点」づくりに取り組む。</p>
<p>整備の方針</p>	
<p>拠点の形成・都市機能形成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や風土を尊重し、良好な環境を活かした里山居住地の形成を図る。 ・豊かな自然・景観を活かし、地域に根付いた文化を発信するため、観光・レクリエーション・文化施設の拠点形成を図る。 ・将来にわたって持続可能な地域づくりを目指す取組みである「小さな拠点」づくりによる生活中心地の形成を図る。
<p>土地利用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・里山集落と農林業との調和を図り、地域の自然・風土を活かした土地利用を誘導する。 ・公共施設や生活利便施設が集約しているエリアを生活中心地として、日常生活支援機能等の維持を図る。 ・空き家や低・未利用な公共施設等の活用による、定住の促進や短期滞在、二地域居住などの新しい住み方や滞在方法を支援する。 ・人口減少・少子高齢化を踏まえ、点在する集落での居住環境の向上を図るとともに、地域住民の参加・合意のもとに集落の整備を進め、長期的な視点に立った集落やコミュニティの維持を図る。
<p>道路・交通整備方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長野広域拠点や他の拠点と連絡する道路整備により、市街地との連携の強化を図る。 ・地域の防災性や居住環境を向上させる生活道路の整備や維持管理を進める。 ・住民生活の移動手段となるバス交通やデマンドタクシー等の公共的な移動手段の確保を図る。 ・周辺の観光拠点との連絡を強化し、周遊性を高めるための道路の充実を図る。
<p>自然環境・都市環境・景観形成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な自然環境や、雄大な景観の保全に配慮する。 ・市街地全体を縁取る緑としての森林や、棚田などの農地の景観の保全を図る。 ・農林業を核とした交流等の促進により、森林や農地の機能の保全を図る。 ・水源の保護や適切な森林整備の促進に努め、間伐材の木質バイオマスエネルギー利用等により森林資源の適切な活用を図る ・自然や観光スポットをめぐるトレッキング・ウォーキングコースの設定による地域内の周遊性や、観光客の滞在性を高める。 ・北アルプス等の雄大な自然眺望の保全を図る。
<p>防災都市づくり方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等防止のための防災基盤の整備の推進や、予防・応急体制の充実を図る。 ・災害時に集落の孤立を防ぐため、複数のアクセス経路の確保を図る。 ・冬季の除雪体制の強化・充実を図る。

【西部山間地域 整備方針図】

農林業を核とした交流等の促進による森林や農地の機能の保全

地域の自然や風土を尊重し、良好な環境と利便性を兼ね備えた長野らしい里山居住地の形成

長野広域拠点や他の拠点と連絡する道路の整備による市街地との連絡の強化



地域共通の事項

- ・ 地域の自然や風土を尊重し、良好な環境と利便性を兼ね備えた長野らしい里山居住地の形成
- ・ 農林業を核とした交流等の促進による山林や農地の機能の保全
- ・ 集落間を連絡するデマンドタクシー等の公共的な移動手手段の確保
- ・ 公共交通の維持や道路の整備による地域間や市街地への交通利便性の確保
- ・ 点在する集落での居住環境の向上と、人口減少や高齢化を踏まえた集落の整備の促進による集落やコミュニティの維持
- ・ 空き家の活用や滞在施設の整備等により、短期滞在や二地域居住等の受け皿の確保
- ・ トレッキング・ウォーキングコースの設定による地域内の周遊性や観光客の滞在性の向上
- ・ 北アルプスなどの雄大な眺望や、棚田などの農地の景観の保全
- ・ 森林水源の適切な管理による水源の保護や災害防止・保水機能の確保
- ・ 自然環境や農林畜産物等を活用した自然体験や農村体験など、交流と憩いの場としての土地利用の誘導
- ・ 地域コミュニティの再生と維持を目指す「小さな拠点」づくりの検討

